

脳

〔6年〕

「左下へはらう」

11画 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

〔なりたち〕 旧字体は腦。頭の形を表した因(思の田と同じ)と頭髮を表した「月」の会意字である。月と、肉体の意味を表した月(にくづき)との会意形声字。あたま。特に、頭の中の「のうみそ」のこと。「のう」。



いみじゆく

のう。大脳：脳の大部分を占める重要な器官。精神活動をつかさどっている。▼精神の働き。頭脳：①精神の働き。知力や判断力。②組織のかしら。中心人物。脳裏：考えの中。用例：脳裏に浮かぶ。(考えつく。思い出す)。

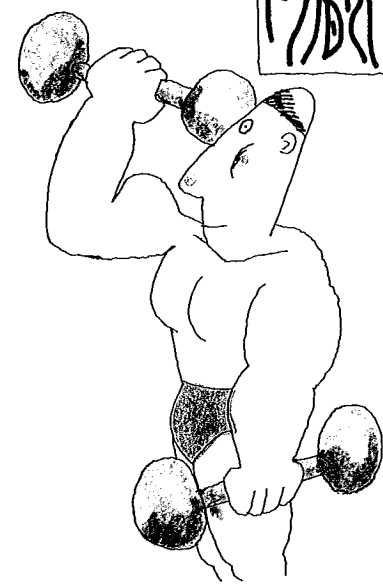
▼中心になる重要人物。首脳：大きな組織(特に政府など)の中心人物。よみかた 脳炎・脳出血・脳天・脳波・脳貧血・間脳・小脳・中脳。

腕

12画 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

「はわる」

〔なりたち〕 夜、家の中で体をかがめている様子を表した宛(えん)と、肉体の意味の月(にくづき)との会意形声字。宛の曲げる意味を借りて、しなやかに曲がる「うで」を表したも。転じて、「腕前」。



いみじゆく

うで。ひじから手首まで。腕力：①腕の力。②肉体的な力で相手を押さえつけること。用例：腕力をふるう。腕章：腕につけて、目印にする布。

▼うでまえ。鉄腕：鉄のように丈夫な腕。手腕：物事を行う腕前。能力。敏腕：事務や事件をてきぱきと処理する能力があること。よみかた 腕利き・腕比べ・腕試し・腕白・二の腕・細腕。

胆

〔6年〕

9画 月 月 月 月 月 月 月 月 月

〔なりたち〕 旧字体は膽。肝臓が出す胆汁を蓄える「胆嚢(だん)」を表した字。重い物を担う力(たから)から出ると昔の人は考えたらしい。になう意味の詹(せん)と、肉体の意味の月(にくづき)との会意形声字。



いみじゆく

▼きも。胆嚢(だん)。胆汁：肝臓から分泌される消化液。脂肪の消化を助ける。胆石：胆汁の成分からできる結石。胆嚢(だん)にできると、非常に痛みを感じる。▼度胸。大胆：度胸がすわって、ものおじしない様子。▼本心。魂胆：心中でひそかにめぐらす考え。したごころ。

よみかた 肝胆・落胆。さんこう 臥薪嘗胆(ひしんじやうたん) 仇(かた)を討とうと苦心を重ねること。(吳王夫差が薪の上に寝、越王勾踐(か)が胆(い)を嘗(な)めて、敗北の恥を思い、仇を討とうと苦心した故事から)。

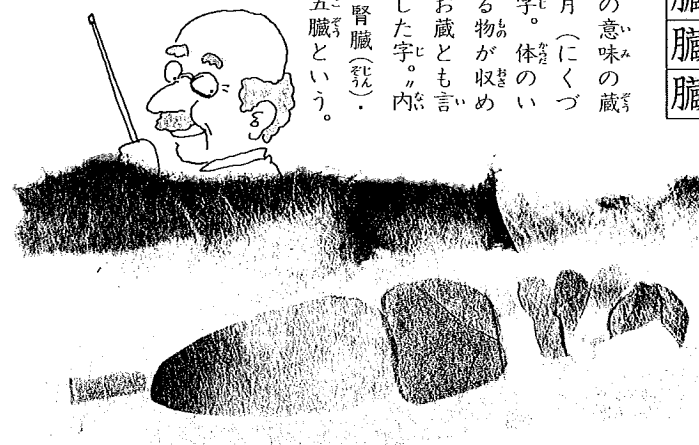
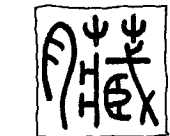
胆

臓

〔6年〕

19画 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

〔なりたち〕 蔵(倉)の意味の蔵(ぞう)と、肉体の意味の月(にくづき)との会意形声字。体のいろいろな働きをする物が収められている肉体的な臓とも言うべき「器官」を表した字。内臓。心臓・肝臓・腎臓(じん)・肺臓・脾臓(ひ)を五臓という。



いみじゆく

▼体の中の器官。はらわた。臓器：内臓の諸器官。臓物：内臓。はらわた。よみかた 肝臓・五臓・心臓・内臓・肺臓。